

日本臨床教育学会 第11回研究大会開催要項



大会プログラム



1. 大会日程（全日程オンライン開催）

*理事会：2021年10月1日（金）16:30～19:00

*1日目：10月2日（土）

9:30	10:00		12:00	13:00		15:00	15:20		17:20
Web 受付	自由研究発表（A） 一般研究		休 憩	課題研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ		休 憩	シンポジウムⅠ 臨床教育学の概念と方法		

* 情報交換会は開催いたしません。

*2日目：10月3日（日）

9:00	9:30	10:10	10:30		12:30	13:30		15:30
Web 受付	総会	休 憩	シンポジウムⅡ 新型コロナウイルス感染症 と臨床教育学		昼 食	自由研究発表(B) 実践事例研究		

2. 大会会場：Web 会議ソフト「Zoom」を用いたオンライン開催

通信拠点：東大阪大学（〒577-8567 東大阪市西堤学園町3丁目1-1）

※通信拠点からの大会参加はできません。

3. 大会実行委員会

実行委員長	渡邊 由之	(東大阪大学)
副実行委員長	吉岡 眞知子	(東大阪大学)
副実行委員長 (会計担当)	田邊 哲雄	(湊川短期大学)
実行委員	今井 美樹	(東大阪大学)
	上田 孝俊	(武庫川女子大学)
	川谷 和子	(神戸教育短期大学)
	田邊 実香	(大阪樟蔭女子大学)
	長谷 範子	(花園大学)
	東出 益代	(武庫川女子大学)
	二羽 礼	(東大阪大学)
	村越 直子	(武庫川女子大学)
	山内 清郎	(立命館大学)
	山内 弘美	(東大阪大学)



インフォメーション

1. 大会受付

Web開催となりますので、現地での当日受付ができません。そのため Google フォームにて事前の参加申し込みをしてください。

申込期限は、**2021年9月30日(木)まで**です。

会員の皆様へは、学会事務局にご登録いただいているメールアドレスに Google フォームのリンク先（URL）を記載してお送りいたします。お手数ですが、リンク先にアクセスして必要事項をご入力ください。なお、学会ホームページにも掲載いたします。

【Google フォームを使い慣れていない方へ】

学会のメールアドレス宛に、①氏名、②メールアドレス、③参加区分（一般 or 学生・院生）、④会員資格の有無、の4点を明記してメールをお送りください。ただし、大会間際の申し込みですと確認漏れが生じる恐れがあります。ゆとりをもってご連絡ください。

2. 大会参加費と参加申し込み方法

大会参加費は、下記の金額を、指定の振込先にご入金ください。

* 一般：3,000円 学生・院生：1,000円

* 振込先情報

銀行名	： ゆうちょ銀行（金融機関コード 9900）
店番	： 099
預金種目	： 当座
店名	： 〇九九店（ゼロキユウキユウ店）
口座番号	： 0201609

* ATMからの店名検索では、「セ」を入力してください。振込名義は、必ず参加者の氏名でお願いします。振込手数料につきましては、参加者の負担でお願いします。

* 郵便局の「払込取扱票」をご利用の場合は、下記のように記載してください。

00		払込取扱票		口座記号・番号はお間違えのないよう記入してください。	
口座記号	00930	口座番号(右詰めで記入)	2	金額	千 百 十 万 千 百 十 円
					201609
加入者名	日本臨床教育学会			料金	備考
通信欄・ご依頼人	〒 おしほ おなまえ			日附	印
	(ご連絡先電話番号)			料金	備考
	裏面の注意事項をお読みください。(ゆうちょ銀行) これより下部には何も記入しないでください。			日附	印

振替払込請求書兼受領証	
口座記号番号	00930-2
口座番号	201609
加入者名	日本臨床教育学会
金額	千 百 十 万 千 百 十 円
おなまえ	
ご依頼人	様
(領受税込み) 料金	日附 印
備考	円

各票の※印欄は、ご依頼人様においてご記入ください。
記載事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押してください。
この受領証は、大切に保管してください。

注意：上記＜払込取扱票＞による申し込みの締切は、9月30日(木)です。

* 大会には、会員以外の方でも「当日会員」として上記の参加費でご参加いただけます。

* 発表要旨集録はデータのみのお渡しとなるため、参加費には含んでおりません。

* 大会に不参加で「発表要旨集録」の入手を希望される方は、学会のメールアドレス宛にご連絡ください。メール添付で送らせていただきます。

3. 発表・提案に関するお願い

【参加される皆様へ】

1. 発表要旨集録は 9 月 20 日前後に、司会者・発表者・参加申し込みをされた方々にメールで配布いたします。司会者の皆様には、上記日程よりも前に、担当される分科会の発表要旨をお送りいたします。
2. Zoom の利用時に、登録氏名が異なる場合がございます。その際は、ご本人の氏名に変更していただきますようお願いいたします。
3. 発表中、司会者・発表者以外の参加者は、Zoom のビデオ及びマイクをオフ（ミュート）にしてください。インターネット回線の負担軽減が目的ですので、ご理解をお願いします。なお、会場によって司会者からオン・オフの指示がある場合は、ご協力いただきますようお願いいたします。
4. 質疑応答において質問がある方は、ビデオとマイクをオンにしてご発言ください。
5. 自由研究発表・課題研究においては、「ブレイクアウトルーム」機能を用いて分科会場を設定します。
はじめに、司会者・発表者を優先的に振り分け、事前打ち合わせをしていただきます。参加者については、開始時間の 5 分前を目安に、参加したい分科会を選び、会場を移動してください。移動方法がわからないときは、事務局がサポートいたします。

【会場の移動方法】

- ① 移動する際は、画面上のこのマークをクリックすれば、開設中の会場を選択する画面が開きます。



- ② 参加したい会場の横にある「参加」をクリックすれば、希望の会場に遷移します。



6. 発表中も移動することは可能です。移動方法は、「5」と同様となります。

【注意】 会場（ブレイクアウトルーム）の自由選択は、アプリケーションのバージョンが古いと機能しないため、あらかじめ最新版のアップデートをお願いします。

7. 「ブレイクアウトルーム」を開設している間は、事務局関係者がそれぞれの分科会に参加しています。問題が生じた場合は事務局関係者、あるいはメインルームの担当者にお伝えください。

8. 自由研究発表・課題研究においては、討議が終わりましたら、会場ごとに休憩あるいは解散とします。

すべての分科会の終了を確認したのち、事務局担当者がブレイクアウトルーム機能を解除し、通常のミーティング画面に戻します。特別な操作は必要ありませんので、分科会終了後も退室せず、そのままお待ちいただいで構いません。

9. 発表に際しては、Zoom の「画面共有」が有効となっています。発表要旨集録以外の提示資料がございましたら、発表者自ら「画面共有」にて提示してください。

なお、発表または提案においては、日本臨床教育学会の＜倫理規程＞を遵守してください。とりわけ、個人情報の保護を徹底してください。

【司会者・発表者の皆様へ】

1. 「自由研究発表 (A) 一般研究発表」の司会者及び発表者の皆様は、10月2日（土）9:45 に Zoom にアクセスしてください。開始 5 分前までに司会者との顔合わせや提示資料の確認、動作確認などを行います。

各発表につき、発表時間 20 分、質疑応答 5 分です。全発表の終了後、編成された部会ごとに全体討議として 20 分を設けます。

2. 「自由研究発表 (A) 実践事例研究発表」の司会者及び発表者の皆様は、10月3日（日）13:15 に Zoom にアクセスしてください。開始 5 分前までに司会者との顔合わせや提示資料の確認、動作確認などを行います。

各発表につき、発表時間 40 分、質疑応答 20 分です。全体討議は設けませんが、残り時間があれば、行っても差し支えありません。

3. 課題研究及びシンポジウムの司会者・発表者の皆様は、それぞれの開始時間 15 分前までに Zoom にアクセスしてください。
直前の打ち合わせについては、シンポジウムはメインルーム、課題研究は各ルームにて行うことができます。
4. 発表に際しては、Zoom の「画面共有」が有効となっています。当日提示する資料がございましたら、発表者自ら「画面共有」にて提示してください。なお、発表内で触れる第三者の個人情報保護を徹底してください。
5. 分科会記録については各会場の司会者あるいは参加者で担当を決めていただきますようお願いいたします。
※ご要望があれば、事務局員がサポートいたしますので、事前にご連絡ください。
6. 課題研究やシンポジウムにおける提案者 1 人の提案時間や提案順序につきましては、各部会によって異なりますので、各担当理事を中心に事前に確認し合っておいてください。また直前にも確認し合ってください。
7. **Zoom の接続テスト日を、9 月 25 日（土）の 11 時～12 時に設けます。**
作業に慣れておきたい方は、ご活用ください。アクセス先は、メール配信される大会用の Zoom URL と同じです。

プログラム1日目



9:30~ 受付

10:00~12:00 自由研究発表(A):一般研究

13:00~15:00 課題研究I・II・IV

15:20~17:20 シンポジウムI



自由研究発表（A）：一般研究発表
10月2日（土）10：00～12：00

一般研究 第1分科会

教師による子ども理解の実践的模索

司会：制野 俊弘（和光大学）
山内 清郎（立命館大学）

- * 被災児・者の声を聴きとろうとする教師意識とその基盤となる生徒指導実践

上田 孝俊（武庫川女子大学）

- * 地域に生きる子どもと教師のまなざし
－震災後岩手・沿岸の教育実践から学んだこと－（その4）

土屋 直人（岩手大学）

- * 教師が「こどもにきく」ということの意味
－1950年の山本正次のレポートをもとに考える－

田崎 由子（大阪綴方の会）



自由研究発表（A）：一般研究発表
10月2日（土）10：00～12：00

一般研究 第2分科会

協働の場としての学校

司会：廣木 克行（神戸大学名誉教授）
富田 充保（相模女子大学）

- * 小学校教師はスクールカウンセラーとの出会いをどのように体験したか
ー子ども理解を通じた他職種協働の可能性

板田 裕子（札幌学院大学）

- * 学校における福祉的支援とは何か
～スクールソーシャルワーカーの取り組みから～

内田 宏明（日本社会事業大学）

- * 学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）の臨床教育学的検討
ー地域と学校の関係性の変化についての言説分析ー

早坂 淳（長野大学）



自由研究発表（A）：一般研究発表
10月2日（土）10：00～12：00

一般研究 第3分科会

教育現場を支える創意

司会：春日井 敏之（立命館大学）
筒井 潤子（都留文科大学）

- * 大学の教職課程における「子ども理解」について考える

泉 宜宏（都留文科大学）

- * 認知粒度から見る自閉スペクトラム症児の体験世界
—心理判定員における専門性の問い直しに向けて—

安田 英広（北海道旭川児童相談所）

- * 形成的アセスメント実践における非同期型形成的介入の役割
—第三空間としての「現代社会」教科委員会に着目して—

西塚 孝平（東北大学大学院教育学研究科博士後期課程）



自由研究発表（A）：一般研究発表
10月2日（土）10：00～12：00

一般研究 第4分科会

発達援助専門職の専門性の探究

司会：井上 大樹（札幌学院大学）
影浦 紀子（東雲女子大学）

* 援助者の視点の変容

—認知症の周辺症状と行動・心理症状（BPSD）の視点を用いて—

荒木 実代（武庫川女子大学大学院 臨床教育学研究科 博士後期課程）

* 小児医療におけるホスピタル・プレイ・スペシャリストの役割

—小児科医が考える医療と遊びの可能性—

○松平 千佳（静岡県立大学短期大学部）

松元 圭（関西大学大学院社会学研究科 博士後期課程）

* 午睡場面における子どもに触れる保育者の意識調査

○三好 伸子（金沢星稜大学）

荒木 実代（神戸医療福祉大学）



10月2日(土) 13:00~15:00

課題研究Ⅰ：現代の子どもと子ども理解

-乳幼児期・家庭還元論を超えた臨床教育学的乳幼児期研究の共同構築にむけて-
第4回 子ども・青年理解における、乳幼児期体験の意味と位置づけ

司会：筒井 潤子（都留文科大学）
廣木 克行（神戸大学名誉教授）

<趣旨>


一昨年度までに3回の会を重ねた本分科会では、「子ども理解における乳幼児期の位置と捉え方」について、親たちが抱えている子育て不安と子育て環境をめぐる諸問題との関係に焦点を当て、子育ての援助実践における具体的な事例報告を踏まえて検討を重ねてきた。

しかし昨年からの約一年半に亘る新型コロナの感染拡大によって、昨年度の研究大会は休会となった。この間、社会も学校も家庭も大きく動揺する中で小中高生の自殺の急増が報じられ、半数を越える子どもたちが抑鬱的症状を呈していたことも明らかになった。それは子どもの多くが深刻なストレスに晒され、孤立状態を体験させられたことに他ならず、子どものメンタル軽視と能力偏重という日本社会の積年の病巣がコロナ禍の拡大・深化の中で炙り出された結果と見ることもできる。すなわち行動や症状として表出される子ども・青年の葛藤の深まりの背景には、能力の偏重とメンタル軽視による他者及び自己との関係の不安定化があり、その現状との関係を問わずに感染に対する不安と乳幼児期・家庭還元論で子どもの葛藤を理解することは出来ないからである。

そこで4回目となる今回の分科会では、思春期や青年期の葛藤表出に関わる援助実践の事例を踏まえて、「子ども理解」の名の下で今なお根強く存在する乳幼児期・家庭還元論を批判的に意識しつつ、報告を踏まえて「子どもの葛藤の理解と支援における乳幼児期体験の意味と位置づけ」について検討したいと考えている。

報告1： 新田 耕佑（公立中学校スクールカウンセラー）

報告2： 石塚 かおる（児童養護施設 つばさ園 施設長）



10月2日(土) 13:00~15:00

課題研究Ⅱ：子ども・若者の育ちや自立を支える地域からの共同

**あらためて地域の市民・子どもの声を聴くとは
—自己理解・相互承認から学校づくり・地域づくりの主権者へ、その指導・支援に学ぶ—**

司会：富田 充保（相模女子大学）
池田 考司（北海道教育大学）

<趣旨>

本課題研究は、ここ 10 年その対象を「乳幼児期」「学童期」「青年期」の育ちや自立支援の営みを報告して頂いて、その意義・意味を議論してきた。

今回はそれら蓄積の上に、「地域からの共同と支え合う学校」についての先進的な事例報告を検討素材にしながら、あらためて臨床教育学にとって「子ども・若者の育ちや自立を支える地域からの共同とは、何に向けての共同なのかを、深め合いたい。

そこでは、1) 子ども・教職員・地域住民、さらには地域に関わる人々の声を聴くとは、そもそもどういうことか、2) 声を聴き合う中で、役割は違いながらも互いの存在を承認し合うとはどういう意味を持つのか、3) そこでの多声的な声を、学校づくり・地域づくりそのものに具現化し、人々がともども主権者になりゆく場をつくることの意義、そしてそれを可能にする支援・指導とは何か、を理論的にも深めたいと考える。

つまり、臨床的な声を聴く、子ども理解・大人の自己理解から、それがどこに向かうのか考え合いたいということです。具体的には、以下のテーマと報告者・指定討論者を置く予定である。

報告：「地域の学校をみんなでつくる」（仮題）

井内 聖（学校法人リズム学園園長・元安平町総合教育専門員）

指定討論：南出 吉祥（岐阜大学）

10月2日(土) 13:00~15:00

課題研究Ⅳ：教師の専門性の再検討

「コロナ時代」における教育実践と教師
—教師の自己形成と子ども理解に基づく実践—

司会：福井 雅英（滋賀県立大学）

春日井 敏之（立命館大学）

＜趣旨＞

コロナ感染拡大が2年目を迎え、不安と緊張、我慢を強いられてきた子どもたちには、大きなダメージがみられ、保護者、教師にも同様の状況がみられる。子どもたちが楽しみにしていた行事や学級活動、部活動などは中止、変更を余儀なくされ、コロナ感染対策と授業時間の確保に終始した昨年の状況に今年の状況が加わっている。「たわいもない無駄話」や遊びなどが自由にできない日常生活は、乏しい充電のなかで放電だけが強えられる状況ともいえる。学校現場における教育実践をめぐる課題について、次の点を挙げることができる。

①こうした状況にある子どもへの理解を、教師集団としてどう深め共有していくのか。②そのうえで、どのような実践を大切に、どのような実践を見直していくのか。③その際に、指導、支援、ケアの視点から実践をどのように展開していくのか。

また、こうした学校現場の課題に対して、大学・大学院での教員養成や教育行政、学校現場などでの教員研修は、有効なものになっているのか。教員養成の在り方、研修の在り方自体を問い直し、人間、教師としての主体形成を図るために、次の課題を挙げるができる。

①子どもへの威圧的、操作的な対応ではなく、対話的、共感的な対応、姿勢をどこで習得していくのか。②大学での学びと生活は、学生の自立性と協働性に基づく自己形成の場になっているのか。③学校現場における子どもへの見立て（アセスメント）や取り組み方針（プランニング）は、チームとして行われ機能しているのか。④教師になることや教師であることへの葛藤などを含めて、学生同士、教職員同士で、率直に聴き合い語り合えるような関係をどう形成していくのか。

小学校の教育実践と大学における取り組みの報告を受けて、上記の点について議論を深めていきたい。


報告1：「コロナ禍」で育つ子どもたち —子どもたちの言葉から読み解く—

藤澤 淳（北海道 公立小学校）

報告2：問われる教師の専門性と自己形成 —コロナ感染拡大のもとでの課題を踏まえて—

長澤 香澄（京都市立小学校） 山岡 雅博・春日井 敏之（立命館大学）

指定討論：土屋 直人（岩手大学）



10月2日(土) 15:20~17:20

シンポジウム I : 臨床教育学の概念と方法

国際的な研究環境と歴史的な歩み

<趣旨>

日本臨床教育学会が設立されて今年で 10 年を迎える。臨床教育学とは何か。なぜ、臨床教育学が 1 つの学問領域として生まれたのか。そして、この学問は、これからの社会でどのような役割を果たしていくのか。これらは、臨床教育学の学問としての存立基盤となる重要な問いである。この問いを探究するためには、設立趣意書の原点に戻り、国際的な研究環境を視野に入れ、現代思想としての位置づけも探索し、臨床教育学の生成と展開に埋め込まれた思想を振り返ることが必要である。

今回のシンポジウムでは、本学会設立の原点に立ち返り、国際的な研究環境を含む歴史と論理について、(1) 学会設立までの約 15 年 (1996 から 2011)、(2) 学会設立から今日までの約 10 年 (2011 から 2021)、(3) 学会のいま (新型コロナウイルス感染症と地域に生きる人々の生活) とこれからという三つの視座で整理したい。その歴史を振り返る中で、臨床教育学の研究と実践で特徴的だと考えられる概念と方法について精査したい。この提案に基づいて、多世代・多領域の登壇者と対話しながら、これまでの臨床教育学の軌跡と、これからの臨床教育学の未来航路を参加者と共に探究したい。

提案者 :

「ヴィゴツキー理論のオントロジカルな展開と臨床教育学の未来

— ひと粒の水滴から根源的な問いを立ち上げるために—

庄井 良信 (藤女子大学)

パネリスト :

「臨床教育学の言説スタイル——基礎的概念とその自己「再」創出」

山内 清郎 (立命館大学)

「日本の臨床教育学研究におけるナラティブ・アプローチの意義と課題」

田中 昌弥 (都留文科大学)

司会 : 荒木 奈美 (札幌大学)

プログラム2日目



9:00～ 受付

9:30～10:10 総会

10:30～12:30 シンポジウムⅡ

13:30～15:30 自由研究発表(B): 実践事例研究

10月3日(日) 10:30~12:30

シンポジウムⅡ：新型コロナウイルス感染症と臨床教育学

コロナ禍において、あらためて「生存」を支える思想を鍛える

<趣旨>

日本臨床教育学会に所属する有志(理事・会員の数名)で、2年前「コロナ問題と臨床教育学」の研究會を組織し、勉強會をしてきた。その中で、研究の柱を次の5点に整理をし、研究を深めてきた。

1. 子ども・若者たちのコロナ禍の生活の中で抱えている生存・成長・学習の欲求を確かめる。
2. 日本の感染症の歴史、その中での人々と子どもたちの生活史、医療、福祉、教育などの専門職の人々の取り組みの歴史をふりかえり、今日的課題を考える。
3. 地域で人々と子どもたちの「生存」を支えようとしている医療従事者の臨床的・思想的模索に学ぶ。
4. 人々と子どもたちの「生存」を支える地球規模での共同を地域から追究する。
5. 子どもたちの生存・学習の権利と、援助職・教育職の人々の実践・研究の課題と臨床教育学の今日的課題を探る。

今回のシンポジウムでは、上記1・3に焦点を当て、学び深めたい。1の柱については渡邊さんから「コロナ禍での学生の生活と大学教師の課題」を、3の柱については山村さんから「コロナ禍での医療従事者の現状」を話していただく。

山村さんからは、NHKのWEB特集「大阪緊急事態宣下の病床は？ 密着24時間『ギリギリの状態』」という番組にも取り上げられたように「救うことができる命を失うことに」という危機感に迫られながら、医療現場の現実、とりわけ「ギリギリ」の現実についてお話しいただく。同時に、普段から救急救命センターにおいて地域に密着した救急医療を目指しておられる立場から「コロナ禍での地域医療の現状」についても報告していただく。

渡邊さんからは、コロナ禍における2年間の大学教育を振り返りながら、大学生の学習要求や生活上の課題に言及していただく。また、大学がリモート授業に切り替えてきたなかで、学生の生活や学びがどう変わったのか、何が問題化したのか、大学教員及び大学教育実践の立場から提案していただく。

最後に、田中さんからは、お二人の提案を踏まえて「新型コロナウイルス感染症と臨床教育学」に関する研究において必要な視点、見据えるべき方向性について述べていただく。

コロナ禍が終息した後の社会に、2020年パンデミックを経験している私たち当事者は、次の世代にこの教訓を繋ぎ残していく必要がある。そのために、私たちは「新型コロナウイルス感染症と臨床教育学」の研究を深める必要を感じている。

提 案 者：渡邊 由之(東大阪大学)

山村 仁(大阪府立中河内救命救急センター 所長)

パネリスト：田中 孝彦(日本臨床教育学会理事)

司 会：吉岡 眞知子(東大阪大学)



自由研究発表(B)：実践事例研究発表
10月3日(日) 13:30~15:30

実践事例研究 第1分科会

子どもの自己を見据える

司会：上田 孝俊(武庫川女子大学)
本田 伊克(宮城教育大学)

- * 子どもたちによる「てつがく」の試み
—ことばでじぶんを解き放す／世界と生を語りなおす—

北浦 貴之(山梨県公立小学校教諭)

- * 中学校における詩の創作と読み合いの検討
—思春期の「自己」の育ちを支える視点から—

加藤 恵美子(大阪府公立中学校)



自由研究発表 (B) : 実践事例研究発表
10月3日 (日) 13:30~15:30

実践事例研究 第2分科会

教師としての自己を見据える

司会：池田 考司 (北海道教育大学)
川俣 智路 (北海道教育大学)

* 振り返りを「書く」ということ

○小笠原 はるの (札幌大学)
○荒木 奈美 (札幌大学)



自由研究発表 (B) : 実践事例研究発表
10月3日 (日) 13:30~15:30

実践事例研究 第3分科会

生活・学習の主体としての子ども・若者

司会：吉岡 眞知子（東大阪大学）
田邊 実香（大阪樟蔭女子大学）

- * 小学校中学年の通常の学級における学習上困難を示す児童と他者との相互作用の変容に関する研究

ー15ヶ月にわたる縦断研究を通してー

加茂 勇（新潟市立木戸小学校）

- * 外国人留学生が抱える苦悩

ーインタビューを通じた生活臨床の分析・考察ー

○山内 弘美（東大阪大学短期大学部）
玉井 美香（東大阪大学短期大学部）

【第 11 回研究大会に関する問い合わせ】

〒577-8567 東大阪市西堤学園町 3-1-1

東大阪大学 渡邊由之研究室

日本臨床教育学会事務局

事務局長 渡邊 由之

E-mail : crohde2011@yahoo.co.jp

